

金毘羅参りの楽しみ

講による旅の流行

江戸時代中期以降は、社会世情が安定したことや庶民の生活にゆとりが生じたこと、そして参勤交代制度によって全国で街道や宿場の整備が進んだことなどから、旅をする人々が飛躍的に増加しました。しかし、領主支配体制の中での「土地を守る農民」と「家を守る女性」という認識は根強く、基本的に農民と女性が理由なく旅をすることは禁じられていました。

このため、人々は湯治や社寺参詣などを目的として、旅に出る機会を積極的に作るようになりました。特に、伊勢参りや善光寺参りといった社寺参詣のためには、講と呼ばれるグループを作り、旅の経費を掛け金としながら、メンバーが順番に旅に出ることができ、システムが形成されました。

マキノから金毘羅宮へ

『マキノ町誌』に載る「人馬賃

銭覚」は、江戸時代後期の約20年の間に、年に一回、マキノ町内に住む2〜7人が、香川県琴平町の金毘羅宮へ参詣した際の道中の経費を記したものです。ここでは、この記録から、金毘羅宮までの日程、コースを探ってみましょう。

マキノ町を出発した一行は、まず正月6日頃に京都伏見の「ほりま屋善兵衛」に宿泊します。伏見からは船に乗って、淀川を下り、大坂淀屋橋に向かい、ここでは「金毘羅出船所・松屋卯兵衛」に宿泊します。この宿を出発するのが正



「人馬賃銭覚」

月12日頃で、伏見出発から大坂淀屋橋出発までは6日間を要していることになりま。この間には、京見物や大坂見物をしてきたことがうかがわれます。

淀屋橋から船に乗って向かう先は、讃州丸亀（香川県丸亀市）で、一行は京橋東詰柏屋団次の宿に泊まっています。この宿は「出船所」と記されていて、大坂からの船着き場であると同時に帰路の出航場所であったことが分かります。ここを出発するのは正月16日頃で、この間でも神戸や高松見物をしてきたと考えられます。

ここからは、陸路で琴平（香川県琴平町）に向かい、次の宿泊先は「金毘羅大門前・高松屋源兵衛」となっています。そして正月21日頃には、この宿を後にして、帰路についたことが分かっています。

観光を楽しむ人々

記録からうかがえる日程は、年によって若干の違いはあります



金毘羅講中によって建てられた常夜灯(今津町深清水)

が、全体的に随分とゆったりとした行程になっており、行く先々の観光や宿泊は、金毘羅参りをしたようです。

閩文化財課 ☎ (32) 4467

編集感

最近、自己所有のカメラを新調しました。昨年末頃から、近年のミラーレス一眼カメラの性能や技術の進歩に勢いと魅力を感じていました。そんな時、周りにカメラを始めたり、買い替えたりする者たちが現れ、突然ミラーレス化の波がやってきたのです。

そして「迷っている間にも高島の四季は移り変わり、撮影チャンスを逃す！」と自分に言い聞かせ新調を決意しました。

今後は、個人的にも高島の多彩な魅力を写真の力で伝えられるよう、愛機と共に腕を磨いていきたいと思ひます！(Y)



広報たかしま

平成30年

6

月号

No.221

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒502-0156 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740(25) 8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp